

木育(もくいく)

岐阜県立森林文化アカデミー

松井 勅尚

●岐阜県における木育のスタート

木育という言葉は北海道生まれ、国においては平成18年9月「森林・林業基本計画」に明記されました。そして岐阜県では、このアカデミーにおいて平成21年1月に「木育フォーラムin岐阜」を開催し、広く県民に向けてスタートを切りました。

初めて出会う「木育」という言葉に対して、国内外から3人のゲストをお招きしディスカッションをしました。そのコメントの中に「木育とは何か?」が語られており、印象に残ったものを記します。

- 木育は『つながり』がキーワードである。そして木や樹がもつ本質的な良さを伝えていく『心の教育』である
- 岐阜には美しく豊かな森林と、それを生かす木の技術もある。木育を推進する素晴らしい可能性がある
- スウェーデンにおける究極の未来住宅は木の家であり、家具も家もすべて国産の木でつくっている
- プラスチックは優秀な素材であり、優秀だからウソをつくのうまい
悪いのは素材ではなく、その素材にウソをつかせる人間なのだ

私は改めて日本の中での岐阜県の役割を再認識しました。つまり、林業と家具産業が結びつくことが目指す姿であり、無理のない健全な姿であると感じたのです。

また、人間が何を選ぶのか?すべては「心」が決めており、『心の教育』の重要性を感じました。

●となりのトトロ

「となりのトトロ」は、ご存知のように1988年に初上映以来、20年以上たった今も子どもたちが大好きな宮崎駿監督の人気アニメです。保護者の皆さんも子どもと一緒に観ているようです。親子講座でよくする質問の1つに、このトトロの話があります。

「トトロは木に住んでいるおばけ(もののけ)ですが、トトロが住んでいる木は何の木でしょう?」

この質問に答えることが出来る保護者は少ないです。代わりに子どもが元気良く「クスノキ!」と答えてくれます。しかし、実際にクスを見た子どもはほとんどなく「これがクスノキです」と木を渡すと、初めて出会うその香りに子どもたちはビックリしています。クスは、鎮守の森で大切にされてきた樹であり、飛鳥時代には仏像をつくる木として珍重されました。宮崎監督は、サクキとメイのお父さんにこう語らせます。

「昔は木と人は仲良しだったんだよ。お父さんは、この樹を見て、あの家が気に入ったんだよ」

宮崎監督は素晴らしい木育の実践者であると思いました。

●下駄・櫛・箆筒

ところで、「〇〇の下駄」「〇〇の櫛」「〇〇の箆筒」。この〇〇の部分に入る言葉がわかりますか?

答えは、キリ・ツゲ・キリです。私たちは樹種とモノをセットで覚えることにより「適材適所の知恵」を共有してきました。大人向けの講座を開催する度にこの質問をしてきましたが、ある年齢以上は誰もが知っており、逆に30歳以下は誰もがわからないのです。日本人は、数十年で誰もが知っていた木の知恵が、わからなくなってしまいました。

●日本人は木が好き…

確かに日本人は、木が好きです。木目調のテレビや机があるのは、それが好まれ売れるからでしょう。

しかし、使う側に適材適所の知恵が失われた今、木なら何でも良く、どこの国から来た木でも良くなってしまいました。どんな樹種が適切であるか?よりも、どんな色が好きか?どんな色が部屋に合うか?が大切なようです。

この10年間、教員研修を依頼され数多く実施してきました。主に図画工作科・生活科・美術科・技術家庭科の先生等への研修です。これらの先生は木を教材として扱う教科を担当しており、言わば次代を担う子どもたちへの木の文化の伝道師です。「先生方の毎日の職場であり、子どもたちの教育空間である学校の床は、何の木かわかりますか?」この質問に先生たちは誰一人として答えることが出来ませんでした。勿論調べればわかることでしょう。問題は、先生でさえ木を想う力が、「何の木」まで行かなくなってしまったことです。そのことに強い危機感を感じ、可能な限り依頼を引き受けてきました。

●身近な木・身近な人・身近な生き物を大切に

開学以来10年間、(木育という言葉が使われる前から)取り組んできた蓄積を踏まえ、「就学前児童及び保護者に対する木育推進」を卒業生の協力も得ながら開始しました。これは「岐阜県の子もたちを岐阜の山の木で、岐阜のつくり手の手で育てましょう」という運動でもあります。幼稚園・保育園は、子どもたちが初めて過ごす社会です。家族からはなれ、身近な世界が広がるスタートの場があります。その環境こそ『地産地消』であるべきだと私は思います。

同じ土で育ち、同じ空気を吸い、同じ景色を眺め、身近な動物や木や人に囲まれ心を育むことが、ふるさとを愛し大切にすることを育むスタートとして相応しいのではないのでしょうか?子どもたちを取り巻く環境は、益々厳しくなっており待たなしです。

「木を通して生きる力、折れない心を育みたい、 つながりを育みたい」

木育は何を育むのか?子どもたちのために集った皆さんとつくったこの言葉が、私には今しっくり来ています。